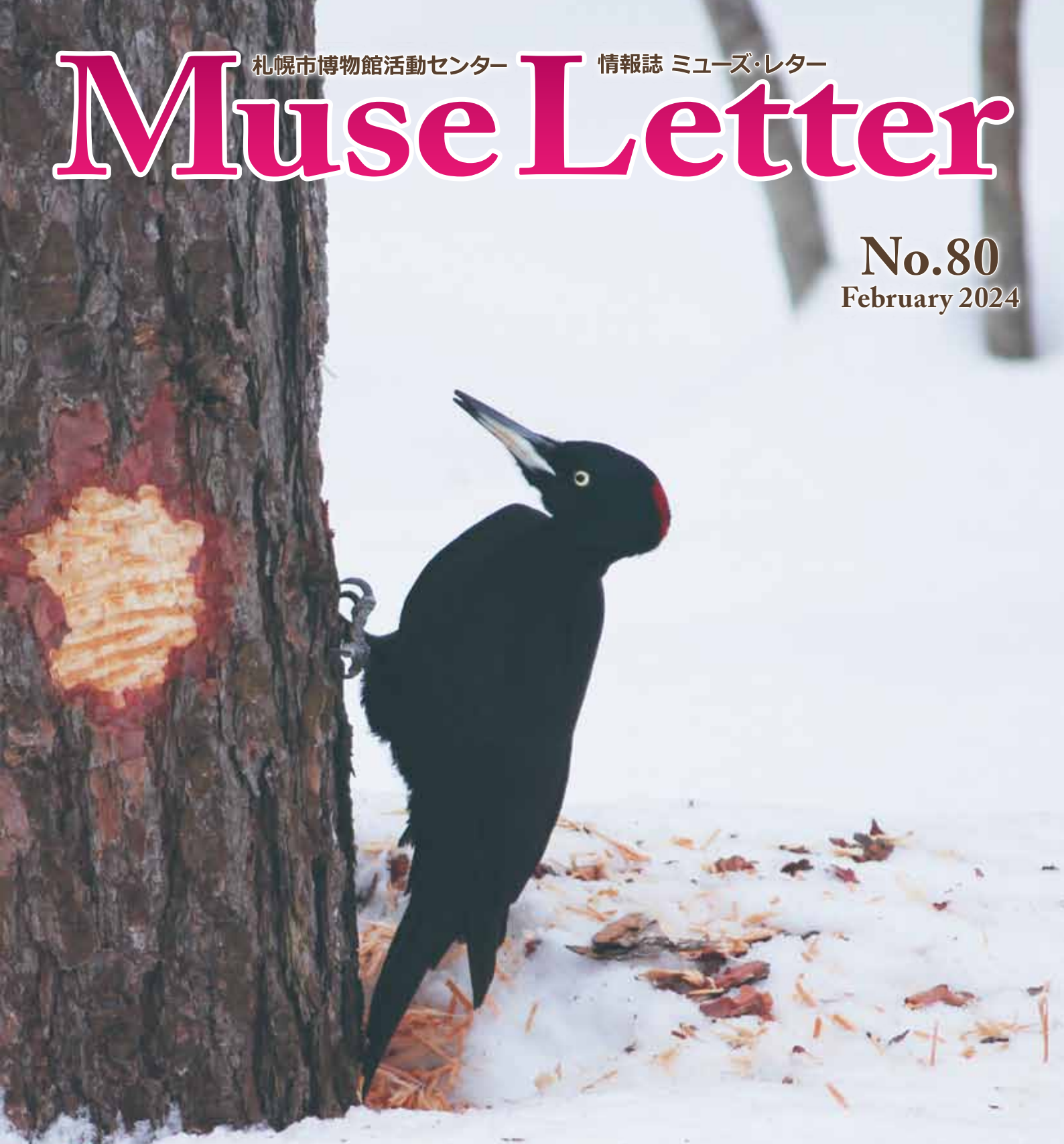


札幌市博物館活動センター 情報誌 ミューズ・レター

Muse Letter

No.80
February 2024



クマゲラ

日本では東北地方北部から北海道全域に生息する日本最大のキツツキ科の鳥です。全身真っ黒でカラスと間違えられることもありますが、オスもメスも頭の一部の毛色が赤く、帽子をかぶっているように見えます。国の天然記念物で絶滅危惧種ですが、冬は円山や野幌森林公園など街に近い場所でも遭遇する確率が高いです。

撮影:西村 孝幸

「博物館」を意味する英語Museumの語源であり、喜びを表すmuse(ギリシャ語)と通信や手紙を意味するLetter(英語)からMuseLetterと名付けました。

豊平川の石ころ

文／学芸員 山崎 真実

「豊平川で激流下り!？」

最近ではラフティングと言ったほうがイメージが湧くかもしれませんが、雪解け水が川に集まるころ、豊平川でも川下りを楽しめるそうです。こうしたレジャーが楽しめるのも、豊平川が国内でも有数の急流だからこそです。なぜなら、豊平川は定山溪よりさらに山奥の源流部から石狩川に合流する河口まで川全体が札幌市内で完結し、山から平地に出るまでの短距離を一気に流れ下ってくるからです。急流は、水の流れのエネルギーが大きいため、たくさんの土砂や石を削り、下流へと運びます。そして、流れが緩くなる下流域に扇状地^{せんじょうち}という平坦で水はけのよい地形を形成します。そうして豊平川が形成した扇状地は札幌中心部の基盤になっています。そういった意味では、豊平川は札幌の“母なる川”といえるでしょう。

しかし、この“豊平川母さん”は流れ下るにつれて、上流、中流、下流で大きく「表情」が変わります。川の「表情」を誰でもすぐに感じられる方法は、河原の石を観察することです。そこで、当センターで過去に行った「豊平川の上流と下流で河原の石がどのように違うのか」の調査を紹介します。内容は2007年度自然探求サポート事業で募集した小学生の疑問を、古沢学芸員(当時)がサポートして調査した結果の一部です。

フィールドワークの調査地は安全に河原に下りられる南区五輪大橋と、そこから約11km下流の白石区菊水元町付近の2地点にしました。写真のように2地点それぞれで河原の石100個をラン

ダムに観察した結果、上流側よりも下流側のほうが黒くて丸い石が多いことが分かりました(図1)。さらに色の違いについて、石の断面を磨いて観察した結果、黒っぽい石は火山活動でできた岩石(火成岩)、白っぽい石は海や湖にたまった砂や泥が固まってできた岩石(堆積岩)^{たいせきがん}が多いことが分かりました(図2)。一般的に、堆積岩より火成岩のほうが硬いとされていることを考え合わせると、岩石が山から流れ出て川に運ばれて、下流に流されていく間に、堆積岩のほうが早く削られて細かな粒になってしまうので、下流に火成岩の黒い石が多かったのではないかと考えられました。

このような川の作用や岩石の種類などは学校の理科の教科書にも出てくるので、誰もが当たり前と思っていることかもしれませんが、地元の豊平川で実際に合計200個もの石を観察することで、知識だけの情報だったことが「血の通った」ものになると実感した調査でした。



写真 河原の石ころは1m四方の中で100個を観察。

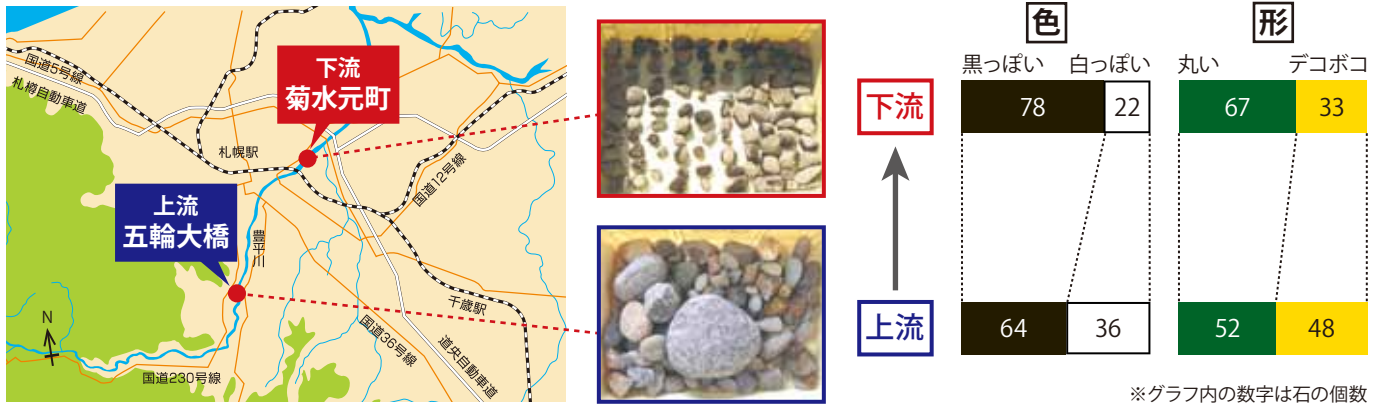
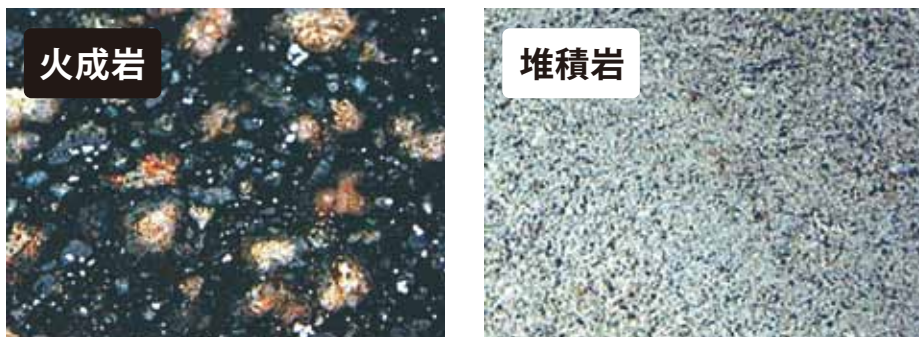


図1 豊平川の河原の石の色と形の観察結果
 上流側：南区真駒内五輪大橋、下流域：白石区菊水元町。両地点間の距離は約11km。



黒っぽい石
 →火成岩が多い
 白っぽい石
 →堆積岩が多い

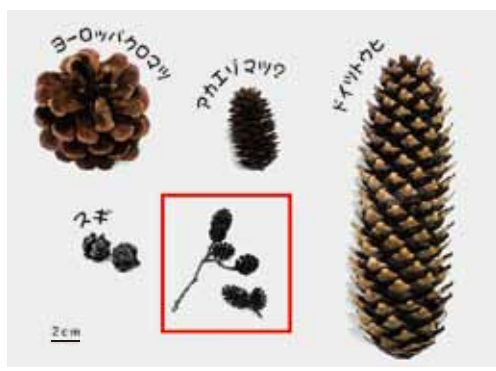
図2 河原の石を割って、断面を磨いて観察した結果
 ※色の判別は参加者の主観で行うなど、初心者に行える方法で実施したため調査のデータは精密なものではありません。

山崎学芸員不在のある日、来館者から小さな松ぼっくりのような木の実(写真赤枠)の名前を知りたいという質問がありました。展示解説員としてなんとしてでも質問にお答えしたい!と思いい、松ぼっくりがなる木、針葉樹(裸子植物)が載っている図鑑(注)を開きました。

まずは来館者と一緒に図鑑の写真と実物を見比べました。ところがこんな小さな松ぼっくりは見当たりません。行き詰まった私は記憶をたどり、似た木の実が「ハンノキ」という植物であったことを思い出しました。索引で調べると、今手にしている図鑑ではなく、サクラやアマと同じ被子植物である離弁花の図鑑に載っているじゃありませんか!見た目に気を取られ、この木の実を松ぼっくり=裸子植

ホット
 コラム
展示室につき
博物館活動センターの質問箱

○月×日 展示解説員 首藤 昌子



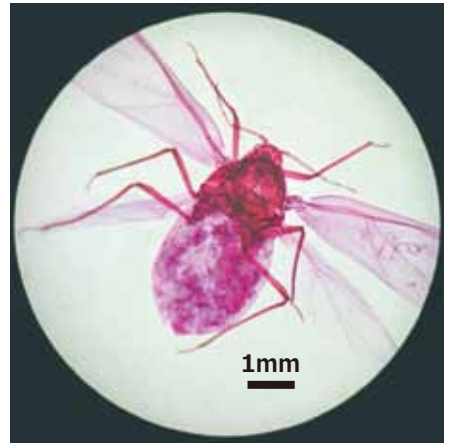
※松ぼっくりは松かさとも言い、主にマツ科の植物の種子を守る球形の器官。マツ科は、スギやイチイなどとまとめて針葉樹と呼ばれる裸子植物である。

注：写真/茂木透 解説/城川四郎・高橋秀男
 川重年ほか、2001「山溪ハンディ図鑑5 樹に咲く花合弁花・単子葉裸子植物」山と溪谷社

コレクション クエスト

ふだん公開していない
収蔵物を紹介します。
さあ、標本の世界を冒険だ！

2023年晩秋、全国的なニュースとなった「雪虫」の大発生。雪虫は1種類の昆虫を指すのではなく、初冬に飛ぶアブラムシの仲間を



標本No.2007年度 035
トドノネオオワタムシ
(札幌市博物館活動センター収蔵、染色、プレパラート標本)

まとめて呼び、学術的にユキムシという和名の昆虫はいません。北海道ではトドマツとヤチダモの2種類の樹木に寄生するトドノネオオワタムシが例年が多いのですが、2023年はケヤキに寄生するケヤキフシアブラムシが大発生しました。マスコミからの問い合わせで「クリスマスといえばサンタクロースみたいな、道民にとってユキムシといえば『なんとか』というのはありますか」と聞かれて返答に困った学芸員でした。あなたなら、どう答えますか？

文・写真/学芸員 山崎 真実

File No.16
サッポロカイギュウが
都市型水族館に出現

SMAC活動レポート

当センターで行われる、市民の自主的活動や、学校との連携など、さまざまな活動を紹介しします。

アオアオ サッポロ
都市型水族館AOAO SAPPORO(札幌大通水族館)でもサッポロカイギュウの全身骨格復元標本の展示を始めました。これは、札幌特有の自然やその成り立ちをより多くの方々に知ってもらい、自然や環境に関心を高めてもらいたいとの思いから、同水族館との事業連携により実現したものです。

AOAO SAPPOROで展示されているサッポロカイギュウは海中を泳いでいる姿を想像させてくれる雰囲気となっており、博物館活動センターで展示しているサッポロカイギュウとはまた違って、札幌がかつて海だったことを直感的に見せる展示になっています。

今後も、AOAO SAPPOROと連携しながら、札

幌の自然史や北海道の自然の魅力に関心を持ってもらえるような取り組みを進めていきたいと考えています。



写真：都市型水族館AOAO SAPPOROでの展示

※当センターでもサッポロカイギュウの骨格復元標本を引き続き展示中。



交通アクセス

- 地下鉄南北線「澄川駅」北出口から徒歩約10分
- 地下鉄南北線「南平岸駅」東出口から徒歩約14分

札幌市博物館活動センター information

入館料：無料
開館日：火曜～土曜 開館時間：10時～17時
休館日：日曜・月曜、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)



ホームページアクセス
二次元コード



さっぽろ市
02-D05-23-1192
R5-2-826

発行 札幌市博物館活動センター

〒062-0935 札幌市豊平区平岸5条15丁目1-6 Tel : 011-374-5002 Fax : 011-374-5014
Email : museum@city.sapporo.jp ホームページ : <https://www.city.sapporo.jp/museum/>



ミュージ・レターは、植物油インキおよび、環境省が定める「グリーン購入法」の適合紙を使用しています。